



平成27年度

南陽市中学生

地域間交流セミナー

報告書



南陽市教育委員会

はじめに

南陽市教育委員会 学校教育課長 板垣 健

今年度初めて実施した「南陽市中学生地域間交流セミナー事業」の目的は、「南陽市と異なる歴史や文化等を有する特色ある地域との交流事業を通して、南陽市を外から見つめ直し、地方創生に向けた愛郷心を醸成すると共に、将来の南陽市を担う自立した人材を育成すること」でした。特に、「自立した人材」の具体的な姿を、①自分の意志で決めることができること、②広い視野を持ち、多面的な見方・考え方ができることの2点に焦点化し、事前研修会から各校での報告会まで一貫して参加生徒に求めてきました。

訪問した沖縄県糸満市は、日本で唯一、住民を巻き込んだ地上戦が行われた沖縄県の中でも戦闘終焉の地です。多くの平和祈念に関する慰霊塔や平和祈念資料館など、今を生きる私たちに、過去を学び、平和への想いを未来へつなぐ史跡・施設がたくさんあります。これまでもテレビや新聞、社会科の学習等を通して、参加生徒一人一人が戦争の悲惨さや命の尊さを学んできたことと思いますが、実際に人々が逃げ惑い、多くの尊い命が失われた糸満市の地を自分の足で踏みしめるとともに、深い悲しみを乗り越え、平和を希求する一言一言が深く心に染み入ってきたボランティアガイドや民泊の方々のお話は、これまで目にしてきた教科書や資料集の情報量の限界を遥かにしのぎ、正に「百聞は一見にしかず」を実感したことと思います。

しかしながら、参加生徒が見聞きしてきたことは、戦争に関する極々一部であることを忘れてはいけません。私たちが求めるのは、冒頭で示したように「自立した人材」です。このセミナーは参加生徒にとっての「きっかけ作り」にしか過ぎません。毎日の学校生活、土日の部活動等で忙しい時間を過ごしていることとは思いますが、時間を見つけて、あるいは今後高校生・大学生・社会人になった時に、改めて別の角度からも戦争や平和、そして地域人としてのあり方・生き方について深く考える機会を主体的に持つことを期待しています。

この報告書には、参加生徒一人一人の個性的で素直な感想が収められています。戦争や平和に対する思いや考えとともに、自分自身の成長を見つめることも大切です。交流セミナー応募前の自分と、交流セミナー参加後の自分の変化や成長に目を向けてみてください。刺激的な体験の後は、体験したこと自体が記憶として残ってしまいがちです。でも記憶として残るということは、自分自身の内なる変化があった証拠です。その内なる変化に目を向けて欲しいと思います。見ようとしないと見えない、聴こうとしないと聴こえないものがあります。例えば、民泊家庭の方やボランティアガイド、バスガイドの話の中で心に残った言葉を書き出してみることで、「自分はこういうことに興味がある」「こういうことを学んだ」ということが確認できるはずです。

今回の交流セミナーに参加できた生徒は12名です。南陽市民約32,000名の中の小さな小さな12名の点です。でも、この交流セミナー事業を通して感じたことや学び考えたことが、個々の生徒の内面にある物事の見方・考え方の判断基準に統合され、これまでも増して自らが主体的に判断し、行動化することにより、事業成果が多面的に広がることを期待しています。

最後になりましたが、本交流セミナー事業を実施するに当たり、市内各中学校の校長先生を始めとする各中学校の先生方、特に事前研修会から熱心にご指導いただきました南陽市立沖郷中学校の鈴木かなえ先生、社会教育課の小下圭介さんに感謝を申し上げるとともに、訪問団を快く受け入れていただきました糸満市教育委員会、糸満市立糸満中学校、糸満市観光協会、民泊家庭の方々、その他多くの関係する皆様方のご理解とご協力で心より感謝を申し上げます。

目次

○はじめに	南陽市教育委員会学校教育課長 板垣 健	1
○目次		2
○南陽市中学生地域間交流セミナー参加者名簿		3
○南陽市中学生地域間交流セミナー実施要項		4
○保護者説明会資料		7
○事前学習会資料	第1回目	10
	第2回目	13
	第3回目	15
○南陽市中学生地域間交流セミナー結団式資料		19
○事後研修会資料		20
○セミナーを振り返って		21
○生徒報告会の感想から		34
○アルバム		36

平成27年度 南陽市中学生地域間交流セミナー 参加者名簿

No	氏名	性別	学 校	
1		女	沖郷中	
2		女	赤湯中	
3		女	沖郷中	
4		女	赤湯中	
5		男	宮内中	
6		女	宮内中	
7		男	宮内中	
8		男	沖郷中	
9		女	赤湯中	
10		男	宮内中	
11		女	赤湯中	
12		女	沖郷中	

※ 引率者名簿

No	氏名	所属・職	
1	板垣 健	南陽市教育委員会 学校教育課長	いたがき たけし
2	鈴木かなえ	南陽市立沖郷中学校 教諭	すずき かなえ
3	小下圭介	南陽市教育委員会 社会教育課主事	こした けいすけ
4	佐々木 俊	JTB プラネット 取締役社長	ささき たかし

平成27年度 南陽市中学生地域間交流セミナー事業 実施要項

1 目 的

本セミナーは、中学校2年生を対象に、南陽市と異なる歴史や文化等を有する特色のある地域との交流事業を通して、南陽市を外から見つめ直し、地域創生に向けた愛郷心を醸成すると共に、将来の南陽市を担う自立した人材を育成することを目的とする。

- 2 行き先 沖縄県糸満市
 3 期 日 平成28年1月21日(木)～1月23日(土) 2泊3日
 4 対 象 南陽市立中学校の2年生 *教育委員会引率と旅行添乗員が全日同行
 5 募集定員 12名
 6 研修内容

- 1) 史跡等の見学や民泊を通して、沖縄特有の文化や風習等に触れるとともに平和について考 える。
- 2) 現地中学生との交流を通して、自己の地域に対する考え方を深める。
- 3) 事前・事後の学習において、他校の中学生との主体的・協同的な学びを通して、多面的・多角的な見方や考え方を育成する。

7 日程概要(予定)

月日	地名	時間	研 修 内 容	食事
H28 1/21 (木)	南陽市	7:30	南陽市役所集合・出発 ※ バスで移動	
	仙台	11:00	仙台空港着	
		11:55	仙台空港発 ※ 飛行機	
	沖縄 糸満市	14:55	那覇空港着	
		15:30	那覇空港発 ※ バスで移動	
	16:10	首里城公園 着 全員で視察		
	17:30	首里城公園 発 ※ バスで移動		
	18:00	サザンビーチホテル&リゾート沖縄 着 チェックイン 宿泊		
	19:00	夕食		
	20:00	ミーティング(ふり返りと予習)		
22:00	就寝			
1/22 (金)	沖縄 糸満市	6:00	起床	
		7:00	朝食	
		8:30	サザンビーチホテル&リゾート沖縄 発 チェックアウト ※ バスで移動	
		◎史跡等の見学 轟豪～山形の塔～平和祈念公園 ～ひめゆりの塔～琉球ガラス村		
		15:00	～糸満市立糸満中学校 着 【現地中学生との交流】	

		16:30	糸満市内の中学校 発	
		17:00	糸満市観光協会 着	
		17:30	ホストファミリー宅へ移動	糸満市に民泊
1/23 (土)	沖縄 糸満市	9:00	ホストファミリー宅発	
		9:30	糸満市観光協会 着 【お別れの会】	
		10:00	糸満市観光協会 発 ※ バスで移動	
		10:30	国際通り 牧志公設市場 着 【 昼食・お買い物 】	
	仙台	12:30	国際通り 発	
		13:15	那覇空港 着	
		14:15	那覇空港 発 ※ 飛行機	
		16:50	仙台空港 発	
		17:30	仙台空港 着 ※ バスで移動	
		20:00	市役所到着	
南陽市	20:15	解散		

8 参加費用 研修に要する費用(交通費・宿泊費・ガイド料等)は、予算の範囲内において、市が負担する。

9 応募資格 次の要件を満たしているものとする

- ① 本人が積極的に参加を希望していること
- ② 充実した研修ができる健康状態であること
- ③ 保護者の承諾が得られていること
- ④ 事前事後の学習会に必ず参加できること。

10 応募方法 希望者は、次の提出書類(様式1～3)に必要な事項を記入し、直接または郵送で提出する。

- ① 参加申込書(様式1)
健康確認書欄に健康状態が良好であることの証明を所属の中学校長から受けること。
- ② 作文用紙(様式2)
テーマ『私たちの住む南陽市の将来に向けた、私の思い』(原稿用紙800字以内)
- ③ 保護者の同意書(様式3)

11 応募期間 平成27年11月11日(水)～11月24日(月)

締切 11月24日(火) 午後5時 必着 ※郵送の場合は、南陽市教育委員会に当日必着

12 参加者の選抜 ◎応募書類による書類選抜及び面接により選抜する。

13 面接について

- ① 日時 平成27年11月28日(土) 午前9時より
- ② 場所 えくぼプラザ
- ③ その他 申込者多数の場合、応募書類による一次選抜を行う場合がある。
詳細は後日、面接該当者に直接通知する。

14 参加者の決定 ◎申込者全員に選抜の結果を直接通知する。

15 研修前の準備 ◎参加者には、研修前の事前研修会(3回予定)及び保護者説明会を実施する。

16 参加者決定からセミナーまでのスケジュール(予定)

平成27年11月28日(土)	面接選考試験 ⇒ 12/3(木)合格者通知発送
平成27年12月22日(火)	参加者・保護者説明会
平成27年12月28日(月)	事前研修会①
平成28年1月9日(土)	事前研修会②
平成28年1月16日(土)	事前研修会③
平成28年1月18日(月)	結団式
平成28年1月21日(木) ~1月23日(土)	本研修
平成28年1月30日(土)	事後研修

17 研修後の報告 ◎各学校の報告会を設定したり、感想文集としてまとめたりする。

18 申込み・問い合わせ先

南陽市中学生地域間交流セミナー事業実行委員会
【事務局】 南陽市教育委員会 学校教育課 指導係
〒999-2292 山形県南陽市三間通 436 番地の1
Tel:0238-40-3211 fax:0238-40-3388
E-mail:sanoehr@city.nanyo.yamagata.jp

平成27年度 南陽市中学生地域間交流セミナー参加者事前説明会

日 時 平成27年12月22日(火)19:00～

場 所 市役所 大会議室

【進行 事務局】

1 開 会

2 あいさつ

・ 南陽市教育委員会 学校教育課長 板 垣 健

3 参会者の紹介(自己紹介)

・ セミナー参加者 ・ 引率者 ・ 事務局

4 説 明

- (1) 平成 27 年度南陽市中学生地域間交流セミナーの概要
- (2) 平成 27 年度南陽市中学生地域間交流セミナーまでに準備すること
- (3) 今後の日程
- (4) その他

4 質 疑

5 その他

6 閉 会





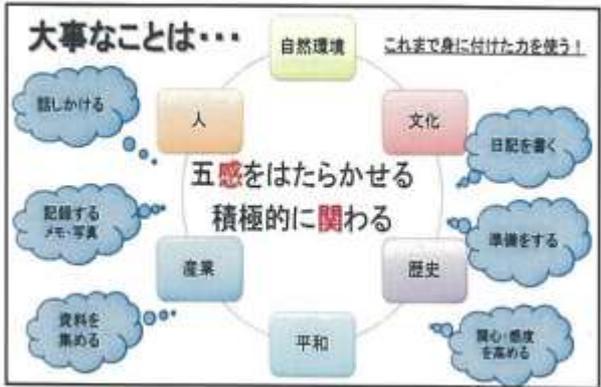
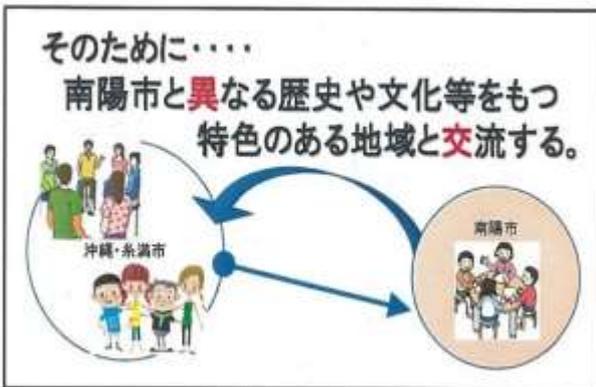
地域間交流セミナーの目的

- ・ 故郷を思い、将来の南陽市を担う **自立した人材の育成**

◎自立した人材……

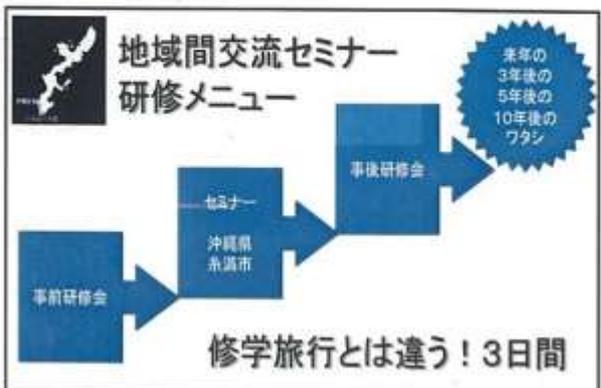
- ・ 自分の進む道を**自分の意志で決めることができる。**
- ・ **広い視野を持ち、多面的な見方・考え方ができる。**

◇ 南陽市中学生としての学びを**発信**する！



研修メニュー

- ・ 沖縄特有の文化や風習に触れる。
→ 民泊・史跡等の見学
- ・ 地域(南陽市)に対する考え方を深める。
→ 現地の中学生との交流
- ・ 多面的、多角的な見方・考え方を身に付ける。
→ 事前・事後の研修



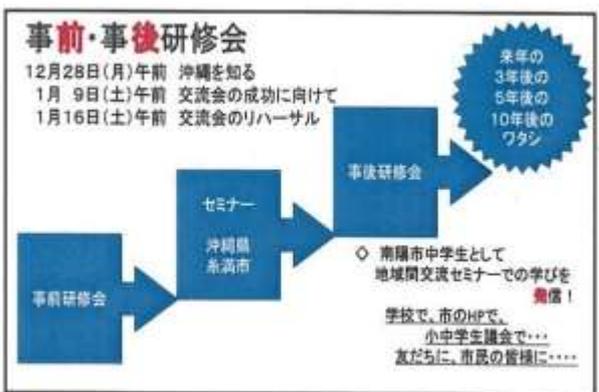
1日目 1月21日(木)
 7:30 南陽市役所出発
 ↓
 11:55 仙台空港発
 ↓
 15:10 那覇空港着
 ↓
 16:40 首里城公園
 ↓
 18:15 サザンビーチホテル&リゾート沖縄



2日目 1月22日(金)
 8:30 ホテルチェックアウト
 ↓
 史跡見学
 ↓
 14:45 糸満市立糸満中学校
 ↓
 ※15:00 『交流会』
 17:00 対面式
 ↓
 17:30 ホストファミリー宅へ移動



3日目 1月23日(土)
 9:00 **ホストファミリー宅** 発
 9:30 お別れの会(観光協会)
 ↓
 10:30 国際通り・牧志公設市場
 ↓
 13:15 那覇空港
 ↓
 16:45 仙台空港 着
 → 20:30 南陽市役所 着

セミナーまで準備すること

- ・ 体調を整える。
- ・ 日常の授業をしっかりと！
 ※セミナーは、“学び”をフルに使う場
- ・ 糸満中との交流の準備 → 宿題
 ※ 伝えたいこと、知りたいこと、比べたいこと…
- ・ 具体的持ち物等の準備
 着替えは？ 履物は？ 記録するものは？ お小遣いは？ グループは？
 ホストファミリーは？ 一人で？…



さあ、ワクワクしてきましたか？
 ドキドキしてきましたか？

◇質疑の時間

平成27年度 南陽市中学生地域間交流セミナー事前研修会 ①

日 時 平成27年12月28日(月)14:00～

場 所 赤湯公民館大会議室

【進行 事務局】

1 開 会

2 団長あいさつ

- ・ 南陽市教育委員会 学校教育課長 板 垣 健



3 研修【14:10】

(1) 本日のねらいの確認

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">① 地域間交流セミナー参加者同士のコミュニケーションを図り、仲間意識を醸成する。② 地域間交流セミナーで学ぶこと、自らの目的意識を確認する。 |
|---|

(2) ワークⅠ 『仲間を仲間に紹介しよう。』【14:15(45)】

- ・ 3人のグループをつくる。
- ・ 誰が誰を紹介するか決める。
- ・ 質問し合って、仲間の良さを掘りおこす。
- ・ 3人で1人のずつ“紹介ポップ”を決める。
- ・ 紹介し合う(1人1分×3人=3分程度 → × 4グループ=(約15分)
- ※ 仲間の良さを発見しよう。

……………休憩……………

(3) ワークⅡ 『沖縄・糸満市を知ろう。』

- ・ 講話 社会教育課主事 小下 圭介
- ・ 質疑・意見交換

(4) ワークⅢ 『セミナーで学ぶことを、自らの目的意識を確かめる。』

- ・ これができたら、“目的達成”という自分のハードルを言葉にする。

(5) シェアリング

4 その他

5 閉 会



ワーク I 『仲間を仲間に紹介しよう。』

チーム

メンバー	メモ欄	紹介ポップ
なんよう 南陽 たろう 太郎	<ul style="list-style-type: none"> ・柔道部・ゆるきやら好き ・好き嫌いが多。メロンパンが大好き ・妹思いのよき兄。 ・ 	<p>熱く燃える男</p> <p>心優しく、燃える男</p> <p>ミスター思いやり</p> <p>意外性の男</p>

【紹介例】

チーム A “心優しく、燃える男” 南陽太郎 さんを紹介します。太郎さんは、現在柔道部に所属し、県大会出場を目指して日々練習に励んでいます。……

※他のチームのよさも見つけよう！



ワークⅡ 『沖縄・糸満市を知ろう。』

【講話から……】



★ ワークⅢ 『セミナーで学ぶことを、自らの目的意識を確かめる。』

これができたら、“目的達成”という自分のハードルを言葉にする。

このセミナーに申し込んだ動機や、今回の研修をふまえて、今、考えている本セミナーにかける思いを言葉にしよう。

★ 第2回 事前研修会

平成28年1月9日(土) 9:30～11:45 南陽市役所 401会議室

・現地中学生とねらいに沿った交流 → 時間は90分

・宿 現地中学生とこんな交流がしたい！ についてのアイデアを考えてくること。

★ 第3回 事前研修会

平成28年1月16日(土) 9:30～11:45 南陽市役所 401会議室

・現地中学生との交流 リハーサル。

★ 地域間交流セミナー結団式

平成28年1月18日(月)19:00 南陽市役所 大会議室

平成27年度 南陽市中学生地域間交流セミナー事前研修会②

日 時 平成28年1月9日(土)9:30～

場 所 南陽市役所401会議室

【進行 事務局】

1 開 会



2 研修【9:30】

(5) 本日のねらいの確認

- ① 現地中学生との交流の内容を決定する。
- ② 地域間交流セミナー当日までに準備することを確認する。

(6) ワークⅠ 現地中学生との交流について

『“こんな交流がしたい”という考えを共有する』【9:35】

- ・ 決まっていることを確認する。
- ・ “私の考え”を付箋に書く。
- ・ グループに分かれ、大判用紙に貼りながら、考えを共有する。
- ・ 分類しながら、キーワードをまとめる。
- ・ グループ間発表を受けて、現地中学生との交流内容を決定する。

……………休憩……………

(7) ワークⅡ 『当日までに準備することを確認する。』【10:40】

- ・ schedule の確認
- ・ 役割分担

(8) シェアリング

4 その他

5 閉 会



★ワークⅠ 現地中学生との交流・・・『“こんな交流がしたい”という考えを共有する』【9:35】

- 期 日 平成28年1月22日(金)
- 訪問校 糸満市立糸満中学校 ※糸満中2年生との交流
- 時 間 14:45～15:00【交流:50分】 ～16:00
- 交流のイメージ

14:45 15:00 15:50 16:00



- ※ テーマは何?
- ※
- ※ 交流会の主体は、南陽の中学生!
- ※ 糸満市の中学生は……………35人 1クラス
- ※ 自分がこのセミナーで何を目的としていたのか、
ということ振り返ろう。

◎①訪問感謝代表挨拶・②進行 ◎③御礼の言葉・④進行

◎ 全体で? グループで? 1対1で? 話し合う? 体を動かす? 歌う?

※ 持っていく? 作っていく? お土産?



★ ワークⅢ 『『当日までに準備することを確認する。』』

★ 第3回 事前研修会

平成28年1月16日(土) 9:30～11:45 南陽市役所 401会議室

・現地中学生との交流 リハーサル。

★ 地域間交流セミナー結団式

平成28年1月18日(月)19:00 南陽市役所 大会議室

◎ ⑤結団式の進行 ・ ⑥団員代表決意の言葉

★ 民泊グループの発表

平成27年度 南陽市中学生地域間交流セミナー事前研修会③

日 時 平成28年1月16日(土)9:30～

場 所 南陽市役所403会議室

【進行 事務局】

1 開 会

2 研修【9:30】

(1) 本日のねらいの確認

(ア) このセミナーに参加する自分の決意を行動かできるか確かめる。

(イ) 現地中学生との交流の進め方を理解する。

※ 挨拶等分担を決める。持ち物等の確認をする。☆ 帰ってきたら報告の義務がある！

(2) ワークⅠ 宿題点検！

『交流ペアで、沖縄を語ろう。』【9:35】

- ・ 沖縄について、調べてきたことをペアで語る。

(3) ワークⅡ 『現地中学生との交流の進め方を確かめる。』【10:00】

- ・ 前回決まったことの確認
- ・ “はじめ”と“おわり”をはっきりさせる。

(4) ワークⅢ 『挨拶等の役割分担をきめる。』【10:50】

(5) その他 持ち物を確認する

4 その他



★ワークⅠ 宿題点検！『交流ペアで沖縄を語ろう。』【9:35】

※最近に起こった沖縄の事件・出来事。沖縄について調べたことなど、ペアに語ろう。

★ワークⅡ 『現地中学生との交流の進め方を確かめる。』【9:50】

- 期 日 平成28年1月22日(金)
- 訪問校 糸満市立糸満中学校 ※糸満中2年生との交流
- 時 間 14:45～15:00【交流:50分】～16:00
- 交流のイメージ

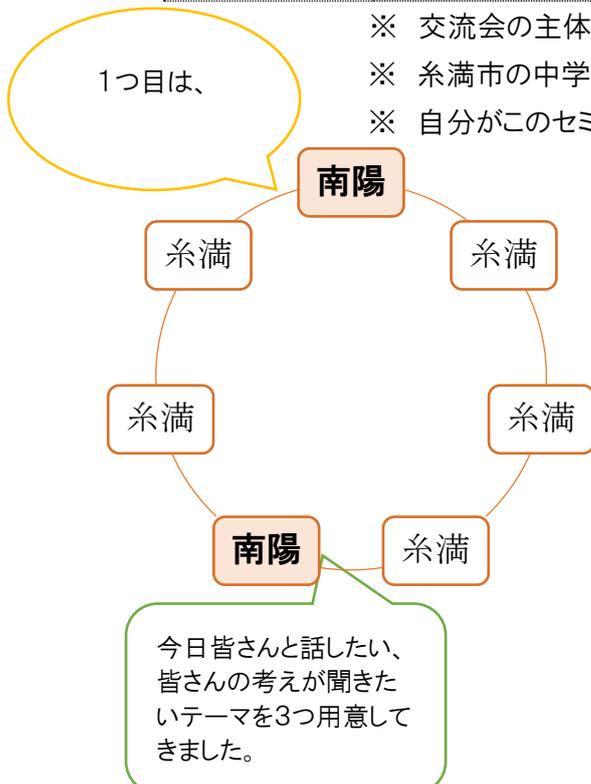
14:45 15:00 15:50 16:00

オープニング セレモニー	交流会【50分】	お別れ の会
-----------------	----------	-----------

- ※ 交流会の主体は、南陽の中学生！
- ※ 糸満市の中学生は……………35人 1クラス
- ※ 自分がこのセミナーで何を目的としていたのか、

ということを振り返ろう。

- 南陽2人 対 糸満5～6人 で 互いがどんなことを考えているのか語り合う。双方向のやり取りを目指す。
- テーマは、ペアで決定。糸満中の2年生に投げかける。質問する。
※ 南陽の“これから”、自分の“これから”につながるような問いができるか！
- 時間を区切って、2セット行う。



◎どんな出会い方をする？ どんな分かれ方をする？【10:10】

- ・ 短い時間で、自分たちのことを少しでもわかってもらえるには・・・
- ・ その後の活動を和やかに進められるようにするためには・・・
- ・ あまり準備の必要がないもので・・・
- ・ 貴重な時間をいただいた学校へ、2年生へどうする？

出会い	
別れ	

★ ワークⅢ 『挨拶などの役割分担を決める。』

1	18日結団式進行	
2	18日結団式代表挨拶	
3	22日糸満中出会いの会代表挨拶	
4	22日糸満中別れの会代表挨拶	
5	22日民泊受入れ式代表挨拶	
6	23日民泊お別れの式代表挨拶	



※ 役割があたらない人は、帰ってきてからの報告会等やイレギュラーな場面で対応していただきます。

★ その他 『持ち物を確かめよう』

NO	持ち物・服装	備考
1	学校の制服・NP	基本的に、セミナー中は制服で行動します。
2	学校のジャージ	ホテルや民泊する際、着用します。
3	下着・靴下等	2泊3日分
4	着替え	基本的に制服で行動しますが、暑さ対策等必要だと思われるもの。事前説明会資料を参照。
5	洗面用具・タオル等	個人で使うものの準備。必要があれば、ドライヤー等
6	薬	必要な人。いつも飲んでいる薬、虫除け等
7	帽子	見学時に着用。安全面も考慮
8	靴	履きなれた、歩きやすい運動靴等
9	おこづかい	10000円以内。買い物をする時間は限られてしまいます。また、暑さ対策として、ペットボトル等を購入する場合があります。金種を分け持参しましょう。
10	懐中電灯	各自1つ持参すること。見学地で使います。
11	デジカメ	必要な人。新たに準備する必要はありません。しかし、皆さんには、報告する義務もあります。記録は重要。
12	研修用具	筆記用具・事前学習資料・自分で集めた資料等、記録は重要。

★ 地域間交流セミナー結団式

平成28年1月18日(月)19:00 南陽市役所 大会議室

☆ 民泊受け入れ民家

第1グループ おおしろ 大城 様

【体験】 パーランカー作り、サーターアンダギー作り

第2グループ くぼた 久保田 様

【体験】 パーランカー作り、ムーチャー作り

第3グループ おおた 大田 様

【体験】 パーランカー作り、三線体験

第4グループ ふくなが 福永 様

【体験】 パーランカー作り、お菓子作り体験

第5グループ いで 井出 様

【体験】 パーランカー作り、フォトフレーム作り

☆ 民泊時の注意事項

◆生活体験について

- ・お客様としてではなく、自分の子や孫としてお預かりします。
- ・ありのままの沖縄の暮らしを体験していただきます。

◆食事について

- ・できる限り地産地消の食材を提供するよう心がけております。
- ・食事の準備～共同調理～配膳～片付けまで民家さんと一緒に行います。

◆生徒さんでご用意いただくもの

- ・個人で使用する洗面用具・タオル・ドライヤー等は各自で持参してください。
- ・バスタオルは民家さんで準備します。

◆お薬に関して

- ・いかなる場合も医師の処方箋がない限り、お薬を一切与えることができませんので、常用薬・常備薬は必ずご持参ください。虫除けスプレーやかゆみ止め等も忘れずにご持参ください。(沖縄は、一年中蚊がいます。)

◆入浴に関して

- ・沖縄の家庭では、ほとんどが湯船の習慣がありません。お風呂はシャワーのみで対応とさせていただきます。入浴時間も10～15分程度で済ませるようご協力をお願いします。

◆服装に関して

- ・冬でも常夏のイメージの沖縄ですが、コートが必要な寒い日もまれにあります。もちろん天気の良い日は半袖で過ごせたり、暑かったり、寒かったりするのが沖縄の冬の特徴です。冷たい北風が強く吹く日は体感温度が下がり、気温のわりに寒く感じます。風を通しにくい素材の長袖を用意しておくとう安心です。
- ・虫対策、汚れても良い服装(長袖・長ズボンやジャージ等)履物は履きやすい運動靴などをお願いします。近くの海で貝殻拾いやイノー観察を体験する場合がありますので、濡れたときの着替えもご準備ください。

◆海に関して

- ・安全第一のため、海での海水浴・グラスボートなどの体験は禁止しております。海に行かれる際は、必ず運動靴をお願いします。

◆当日の緊急対応に関して

- ・民家より、生徒さんの体調不良や状況を確認の上、直ちに事務局より引率者へ連絡します。場合によっては、民家さん宅もしくは病院への同行をお願いすることがあります。

平成27年度 南陽市中学生地域間交流セミナー結団式

日 時 平成28年1月18日(月)19:00～

場 所 南陽市役所大会議室

【進行 宮内中】

1 開会のあいさつ

2 セミナー参加者紹介

① 団長【進行が紹介】起立してもらう。

② セミナー参加中学生【自己紹介】

起立し、学校名・氏名・セミナーに向けて一言

③ 引率者【進行が紹介】

3 団長挨拶 板垣 健 南陽市教育委員会学校教育課長

4 セミナー参加者代表挨拶 【 赤湯中 】

5 激励の挨拶 南陽市長

6 セミナーの概要について 学校教育課指導係長

7 閉会のあいさつ

※ 記念撮影



平成27年度 南陽市中学生地域間交流セミナー事後研修会

日時 平成28年1月30日(土)9:30～

場所 南陽市役所403会議室

【進行 事務局】

1 開会

2 研修【9:35】

(1) 本日のねらいの確認

(ア) セミナーを振り返り、私たちが発信する内容をはっきりさせる。

(2) ワークⅠ “平和について考える”

セミナーで身につけた力をつかう

ディスカッション。

- ・ 現地で見聞いたことや資料から感じた思い
- ・ なぜ…これから…

※ 交流【10:15】

(3) ワークⅡ 発信する内容をはっきりさせる。【10:35】

『これからの南陽市に向けた、私たちの思い……。』

考える材料

- ・ 交流会作文
- ・ 礼状
- ・ ディスカッション

(4) ワークⅢ 『糸満中交流会』感想文の清書

(5) まとめの話

4 その他

・ 学校ごとの報告会 → 市教委から依頼 → 実施 → 報告

・ 【連絡】 セミナー全体を通じた感想文

1600字程度 提出(2・15)

→ 報告書

5 閉会





セミナーを振り返って

学んだことを伝える

南陽市立沖郷中学校 2年

ぼくは、この地域間交流セミナーを通して様々なことを学ぶことができました。事前研修会を1回、2回と重ねていくにつれて、最初はぼんやりとしていた糸満中の生徒との交流の内容も見えてくるようになりました。また、結団式が終わり、参加者全員の顔がひきしまり、決意を新たにしたように見えました。

二日目には、戦争に関わる史跡などを見学しました。最初に案内人の下地さんと一緒に轟壕（とどろきごう）を見学しました。まず目に入ったのは、熱帯雨林さながらのジャングルでした。轟壕は、本当の洞窟のようで、辺り一面が秘境のようでした。がまの中は、目を閉じているのと変わらない暗さで、明かりがないと1センチ先も見えませんでした。轟壕の岩肌は、ゴツゴツとへこんでいるところばかりで楽に座れるところなど一ヶ所ありません。当時は、その中に千人以上も入っていて、小さい子ども達も入るなんて、今の僕にはどうていできないことです。

ひめゆりの塔、平和記念公園では、爆弾が飛びかう中、水をくみに行ったことやたくさん死体がある「がま」での生活のことなど、戦争体験者による生々しい証言文を見ました。内容は、すべてが残酷で戦争の悲惨さを知り、二度としてはいけないことだと再確認しました。僕たちを案内してくれたバスガイドさんと下地さんは、現地の人たちの戦争に対する思いを熱心に語ってくださいました。最後に、下地さんはこうおっしゃいました。

「身近なところから友達をはじめとするすべての人を大切にしてください。」

これは、戦争を体験した下地さんの願いであって、世界の目標だと思います。二人の言葉は、すべて僕たちの心を強く打つほど伝わりました。

民泊では、夕食・朝食ともに沖縄の郷土料理をいただき、沖縄の味を満喫することができました。サータアンダギー作りでは、民泊でお世話になった方と一緒に作ることができ、とても楽しい時間となりました。糸満中の人たちとの交流会や民泊で現地の皆さんとふれあうことができる貴重な時間でした。南陽市も町の魅力であるおいしい果物や温泉をもっと全国に発信するため、糸満市のように民泊を受け入れて地域を活性化させたらよいと思います。

沖郷中では、全校朝会で今回のセミナーの報告会をしました。実際に訪れた史跡の写真を使い、文字に表すことで忘れていた部分も思い出し、より深い内容にすることができました。今後は、再度2年生だけを対象に具体的に戦争について伝えて、みんなで考える授業をします。僕たちセミナー参加者の使命は、この報告会のように戦争のことをみんなに伝えることだと思います。現地の人はどう思っているのか、戦争の残酷さ、自分の正直な意見、考えをみんなに伝え、共有化し、さらによい町にできるようがんばります。

触れて見て学ぶ

南陽市立沖郷中学校 2年

「よろしくお願いします。」

緊張で始まって緊張で終わるような初めての事前学習会では、「仲良くなれるだろうか。」そんな気持ちでいっぱいだったことを覚えています。扉を開けるときには、いつも背筋が伸びる思いで入っていたことは、忘れられません。毎回“宿題”という名目で出されていた課題をやり話し合う。それこそが私を成長に導く第一歩でした。

1日目の朝、かけ足で向かうと、元気ながらも眠そうな皆がいました。するとバスに乗った私たちに、突然かなえ先生が、「一日に全員に話すこと。三日で11名全員と座ること。」と目標を立ててくださいました。正直、人見知りな私には、無理難題に感じました。しかし、一緒にお弁当を食べたり、写真を撮りあったりする中で少しずつ打ち解けていきました。

この3日間でさまざまな所に行かせていただいた中で、もっとも心に残っている所があります。それは、「平和祈念公園」です。ここには、たくさんの沖縄戦の写真や証言文等、数多くの資料があり、その中には、骨がむき出しの写真などがありました。見るも無残なものばかりで心が苦しくなりました。また、壁一面には、ある文が書いてありました。「戦争を起こすのは人間。しかし、それ以上に戦争を許さない努力をできるのも人間。」この文からは、戦争が二度と起こってほしくないという思いが伝わってきました。

糸満中学校との交流会では、「しっかり話し合いができるだろうか。」という思いでしたが、いざ始まると、とても楽しく中学生目線での沖縄を知ることができ、とても有意義な時間にすることができました。民泊では、三線やサーターアンダギー作りなど貴重な体験をさせていただきました。辛いことを学んだ中で、幸せな時間を過ごせたことは、私にとって宝物になりました。

このセミナーで学んだことは書ききれないほどたくさんあります。きれいな海においしい食べ物。そのくらいしか沖縄のことを知らなかった私が、現地に行き、見て学ぶという貴重な体験ができたからこそ沖縄の真実を知ったのだと思います。

また、南陽市と糸満市の共通点を見つけることもできました。それは、人の温かさです。何気ないやさしさが、他の人にとっては、大きな力となります。にっこりとした笑顔で迎え入れてくれた大田のお母さん。臨機応変に対応してくださったキャビンアテンダントの方々は、とても心の支えになりました。このセミナーは、参加した私たちだけでなく、多くの方に支えられて行くことができました。次は、私たちが南陽市を支えていきます。そして、これがひとつの感謝の証になればいいと思います。このセミナーで学んだことを次は、私たちが伝えていきます。

今回は、本当に「にふえーで一びたん。」

大切なことを教えてくれた

研修会

南陽市立沖郷中学校 2年

私が、充実したセミナーになるために立てた目標は、2つありました。1つ目が、「糸満市を通して南陽市を見つめ直すこと」です。2つ目が、「戦争についてもっと詳しく知ること」です。最終的にどちらも達成できたと思います。

1つ目の目標では、南陽市の魅力を見つけることができました。それは、「南陽市には、さわやかマラソンや例大祭などの行事が多くある」という点です。私がこう考えたきっかけは、糸満市の「ハーレー」という行事です。この行事は、450年以上の歴史を持つとても活気あふれる行事です。この話を糸満市の中学生から聞いたとき、私は最初、「南陽市にもこんなふうに盛り上がる行事があればなあ」と思いました。しかし、南陽市の行事について考えているうちに、南陽市は歴史のある行事も多くの人で盛り上がることのできる行事もあることに気付きました。行事が多いということは魅力的なことだと思います。

しかし、それと同時に課題もあります。なぜ、私がハーレーについて聞いたとき、「南陽市にもあったらいいのに」と思ったのかという点です。行事がたくさんあるのに少し寂しく感じるのは、「参加する年代が限られている」からだと思います。よい行事がたくさんあるのに、このような課題があるのはとてももったいないことです。それを改善するために、私から行事に参加したり、行事をよく知って友達を誘ったりして、盛り上げる努力をする必要があると思いました。

2つ目の目標である「戦争を詳しく知る」という点では、糸満市に行ったからこそ見られた建物や資料、現地だからこそ聞いた話などを通して、今まで知らなかったことも知ることができました。その中で、特に心に残った話があります。「がま」のガイドの方の話です。

「戦争することを許可し、進めた国のトップが1番悪い。兵士も、国の偉い人に命令され人を殺したのだから。兵士も本心で殺したいわけではないのだから。」

というような内容でした。この話を聞いて、戦争がもたらすのは大きな損害と多くの人の死や悲しみだけなのだと強く思いました。これから、戦争のない平和な世の中を築いていくために、今回学んだことを多くの人に伝えていかなければならないと思いました。

今回のセミナーでは、当日だけでなく事前や事後の研修もとても勉強になりました。交流に備えて南陽市のことを自分から進んで調べたので、自分の街に詳しくなれました。事後の研修でも、感想を共有することで、自分とは違う考え方や感じ方を知ることができました。

今回の貴重な経験をたくさんの人に伝え、これからの生活に生かしていきます。

「平和」を知った3日間

南陽市立沖郷中学校 2年

「南陽市と異なる歴史などを学び、市を外から見つめ直す。」これがセミナーの目的です。この目的に共感し、参加を希望しました。参加が決まったときは、南陽市に貢献できるようがんばろうと思いました。

セミナーに行く前に3回の事前研修会がありました。その中で、沖縄のことや糸満中学校との交流をどのように深めるのかを決めました。この研修で、自分の意見を持ち、沖縄のことだけでなく、南陽市を発信したいと思いました。

セミナー本番では、那覇に降りるはずだった飛行機が、悪天候のため石垣に到着するということがありました。しかし、それも今ではいい思い出です。驚きの中始まったセミナーですが、私は、2つのことを学びました。

1つ目は、沖縄の風習です。沖縄には、ムーチーの日があるそうです。それは、12月8日に家族の無病息災、厄払いのためにお餅を食べるという風習です。山形県にはない風習なので驚きました。それから、台風が過ぎた後に家を洗うということです。台風でついた砂や汚れを落とし、家が傷まないようにするためです。家を洗うために、たくさんの蛇口がついているのだそうです。どのように家を洗うのか見てみたいと思いました。沖縄独特の話聞き、沖縄を知ることができました。

2つ目は、戦争のことです。私たちはこのセミナーで、がま、平和祈念公園、ひめゆりの塔などを見学してきました。どの史跡も、戦争の恐ろしさを物語っていました。糸満中学校と交流した時、祖父母に戦争のことを聞くと黙ってしまうという話を聞きました。それを聞いて、戦争後も苦しく、辛い思いをしている方が沢山いらっしゃることを知りました。そのような戦争を多くの人に伝えなくてはいけないと思いました。しかし、戦争を体験された方々がご高齢になり、戦争を伝えるのが難しくなっています。どのように伝えるのか考えていかななくてはなりません。「辛く悲惨な出来事を繰り返してはいけない。」「戦争をしてはいけない。」戦争を伝えるということは戦争を二度としないという強い想いに繋がっていくと感じました。

私にとってこの3日間は、とてもいい体験になりました。文化や風習、天候などすべてが違う沖縄の地で学んだ様々なことを発信して、沖縄を知ってもらおうと思います。そのために、全校集会で、沖縄のことを発表し、戦争がどれだけ残酷なものかわかってもらいました。そして、今、自分たちの置かれている環境がどれだけ平和なのかということと、平和は、当たり前ではないということをおいて生活するべきだと感じました。

この3日間で、積極的に行動することや周りを見て行動するようになり、自分が成長したと感じます。これからは、この経験を生かし、南陽市の役に立てるようがんばります。

自分を変えた3日間

南陽市立赤湯中学校 2年

私は、この地域間交流セミナーに参加し、いろいろな点で成長することができました。

民泊では、ホストファミリーの大田さんに教わって、郷土料理の人参シリシリを作ったり、三線を体験したりしました。その体験から、民泊でないと分からなかった沖縄の人の温かさに触れることができました。

そして、糸満中学校との交流。ここでは、同じ中学生の目線で語り合うことができました。山形と沖縄の違い、戦争への意識の違いなど、様々な相違点を発見できたとてもよい交流になったと思います。

その他にも、「道の駅糸満」の見学、エイサー体験から、沖縄の本質に触れることができました。

また、平和学習を通して、戦争への意識が変わりました。「戦争はしてはいけないこと」というのは誰でも知っているし、そのとおりだと思います。しかし、そんな一言で済ませてはいけないくらい壮絶だったことを学びました。平和祈念公園で読んだ生々しい証言文。それはまさに、地獄そのものでした。そして、轟壕。爆弾から逃れるためといっても、あんなに暗くて劣悪な環境で生活していたなんて思うと、2～30分中にならぬのに気分が悪くなりました。ひめゆり学徒隊については、私たちと同じ年くらいだとは知っていましたが、実際に証言文や写真を見ると、目を覆いたくなるようなことが書かれていて胸が痛くなりました。そんな出来事が70年前に起こったなんて信じられませんでした。しかし、沖縄の人は、今も傷ついていることをガイドさんのお話で痛感しました。学んだからには、責任を持って、沖縄戦の実態、沖縄の人々の悲しみを伝えていけるようにがんばります。

さて、このセミナーで私が成長したこと。それは、積極性が身についたことです。以前から、自分は進んで動くタイプだと思っていましたが、他のセミナー参加者は比べ物になりませんでした。意見を出す場面や全員が発言する場面では、自分から発言ができましたが、進んで代表になることができませんでした。何回もチャンスはあったのに、その度に後悔する結果に終わりました。だから、その失敗から学んで、自分から動ける人間になります。

最後に、このセミナーを通して、私自身が大きく成長することができたし、将来の選択肢を増やすことができました。この経験を今後の南陽市に活かしていけるよう、自分にできることからがんばって行きます。

地域間交流セミナーを通して

南陽市立赤湯中学校 2年

「あなたを平成27年度南陽市中学生地域間交流セミナーの参加者として決定しましたのでお知らせいたします。」

この手紙が届いたときから私の沖縄セミナーは始まりました。実際に沖縄に行き、肌で異文化や地域の方々との交流を体験できることがとても楽しみでした。私は、今まで沖縄のことについてよく知りませんでした。だから、まず私たちが訪問する糸満市について知ることから事前学習が始まりました。糸満市を知るにつれて、セミナー本番への期待感が高まり、自分たちの考えで計画実行することの楽しさを知りました。特に糸満中学校への訪問の内容に関しては、私たちに任せられていたので、具体的な内容を決めることも含めて自分たちの手で創り上げました。

そして、セミナー当日。1日目は、悪天候のために移動で一日が終わりました。しかし、それも貴重な体験だったと思います。

2日目、主に沖縄戦について学ぶ建物などを見学してきました。私は今まで戦争のことをよく知りませんでした。しかし、この1日で戦争の悲惨さ、残酷さを学ぶことができました。私が特に印象に残っているのは、轟壕とひめゆり学徒隊の話です。轟壕には実際に入り、当時逃げていた人の辛さを感じることができました。目を開けても閉じても闇の世界で生きていくのは本当に辛かったと思います。ひめゆり学徒隊の話は、自分と同じくらいの歳の人が、次々と運ばれてくる怪我をした兵隊の世話をしていたそうです。最初は、腕や足がない人を見るのは辛かったそうです。しかし、毎日見ると、腕や足がない人を見てもなんとも思わなくなったそうです。それは、人間の感覚ではないと私は思います。他にも、「米兵の捕虜になるくらいなら自決しろ」と教えられていたそうです。それで命を落とした人も大勢います。

このように、戦争は人間が人間でなくなってしまうことなのです。もう二度と戦争は起こしてはいけない、そのために私たちができることは、戦争の恐ろしさを伝えていくことです。今、私たちにできることを精いっぱい行っていきたいです。また、糸満中とも交流を行いました。南陽市のPRをする共に、糸満市の活動についても学びました。違った意見を持った中学生との交流は、とても有意義なものとなりました。民泊体験では、沖縄の人の温かみにふれ異文化を肌で感じることができました。

3日目は、首里城を見学しました。琉球王国時代独特の文化を知ることができました。

このセミナーを通して、計画性や自主性、戦争の恐ろしさや人の温かさなど、本当に多くのことを学んできました。そのことを生かして、自分にできることを考え、沖縄で学んできたことを発信していきます。

地域間交流セミナーから 学んだこと

南陽市立赤湯中学校 2年

私は、この地域間交流セミナーで学んだことが沢山あります。

事前学習会では、最初はなかなか他の中学校の人と話すことができませんでした。でも、回を重ねるごとに、全員と仲を深めながら事前学習会に参加できました。その事前学習会で、自分から何でも率先してすること、返事をする事、自分の意見をしっかりと言うこと、という話がありました。今の私に何が足りないのかを改めて理解することができて、よい事前学習会になりました。そして当日、空港までのバスの中でもいろいろな人と話したり、これからの学習を確認したり、よい時間でした。飛行機に乗っている時、天候が崩れて那覇空港に着陸できなかった時に、客室乗務員さんが優しく声をかけてくれて少し安心しました。私も、誰かが困っているときは、話しかけたり、協力したりしたいと思いました。

3日間で歴史・文化についてたくさん学びました。

まず、戦争についてです。私たちが行った首里城公園、轟壕、山形の塔、平和祈念公園、ひめゆりの塔で、戦争・平和について深く学んできました。私が学んだことで1番心に残ったことは、戦争は絶対にしてはいけないということです。轟壕では、少しの明かりで暮らし、水も飲めず、水があるところに行けば殺されるという話をお聞きしました。私は、地獄のようだと思いました。また、他の場所では、米兵に捕まる前に死を選ぶことを国から教えられ、集団自決をした人もいたというお話をお聞きしました。自分から命を落とすということは、今の私には、想像することができません。また、空から雨のように砲弾が降ってきたことや今でも爆発しなかった不発弾が地面の中に沢山埋まっていることも聞きました。今でも、沖縄の人たちは、戦争と戦っていると感じました。

現地の中学生との交流では、沖縄の伝統的なお祭りを市全体で盛り上げていると聞きました。南陽市にも伝統的なお祭りがあるので、そのお祭りをもっと盛り上げていけばいいと思いました。

民泊では、一緒に料理を作り楽しい時間を過ごしました。また、今の沖縄について聞いてみると、米軍基地の反対デモが24時間体制で行われていて多い日には千人もの人がデモを行っているそうです。もっと深くこの問題について考えなければならないと思いました。

この地域間交流セミナーで戦争は絶対にしてはいけないということを強く感じました。また、これからも地域活動に積極的に参加し、南陽市を盛り上げていきます。最後に、この地域間交流セミナーに行くにあたって、ご協力してくださった皆様、ありがとうございました。

私の糧となった沖縄研修

南陽市立赤湯中学校 2年

12月。沖縄地域間交流セミナーの参加通知書が私の元に届きました。しばらくすると事前研修会が行われ、セミナー参加者の心構えや糸満中学校での交流について学びました。学校とは違って、生徒のみで講義やプレゼンテーションを行うことにとても興奮しました。また、研修生の皆さんは、自分の意見をしっかり持って、自分の刺激になりました。

研修中は平和学習、民泊などを行いました。平和学習では、沖縄戦で実際に使われていた壕を見たり、民泊では、沖縄の人の生の生活を、身をもって経験したりできました。三線をひいたり、沖縄料理を作って食べたり、この研修だからこそ知ったことがたくさんありました。特に平和学習の中で、沖縄戦の悲惨さを知っていくうちに、いかに今の自分の生活が幸せなのかがよく分かりました。

事後研修会では戦争や今回の研修について、それぞれが意見や思いや考えを述べ合いました。その中で、「こういう考え方もあるのか。」と感心させられる意見がいくつもあり、一つのことでも、考え方や見方によって、たくさんの意見が出るのだと分かり、とても興味深かったです。

今回の研修の中で私は、沖縄は地域間のつながりがとても強いと感じました。地域間のつながりが強いと、子どもの防犯や災害時などに助け合えるなど、より点がたくさんあると考えました。この地域間のつながりは、南陽市にとってもとても大切なことであり、今、もっとも必要なことだと思います。だから、私は、この地域間のつながりを高めるために、地域の行事に積極的に参加したり、地域の方に挨拶をしたりしていこうと思います。

今回の研修は、普段の学校生活の中では学べないようなことをたくさん学ぶことができました。この経験を自分の糧として、これからの学校生活に活かしていこうと思います。また、今回この研修は、多くの人の支えがあったからこそできたのだという感謝の気持ちも忘れず生活していこうと思います。



沖縄から未来を考えた

3日間

南陽市立宮内中学校 2年

今年の地域間交流セミナーは、場所が沖縄に変更されて初めてのセミナーで、僕はそんなよい機会に連れて行っていただけてとてもうれしかったです。

まず、今回のセミナーは、沖縄を調べるところから始まりました。僕の沖縄についての知識は、このセミナーの前はほとんどありませんでした。また、歴史も山形とは全く違うので沖縄に行く前にたくさんの事を調べました。セミナー当日までの準備期間は、1ヶ月以上あったのですが、様々な準備をしていると、あっという間に当日になりました。

沖縄には、仙台空港から飛行機に乗り、那覇空港に降りる予定でした。しかし、天候が悪化し、当初降りるはずでなかった石垣島に行きました。石垣島では、JTBの佐々木さんがリードしてくださったおかげで、あまりあわてることなく行動することができました。

二日目は、戦争に関係のあるところに行きました。僕が心に残った場所は2つあります。1つは、実際に戦争で使用された轟壕という場所です。戦争は70年前に終わりましたが、沖縄には戦争の爪跡が今でも残っていました。轟壕には、戦争中、たくさんの人が避難していたらしいのですが、実際に中に入ってみると、ほとんど平らな場所などなく、光も一切入ってこなくて、歩いているだけでも怖かったです。そんなところに長い時間いたと考えるだけで息苦しくなりました。

もう1つは、平和祈念公園です。平和祈念公園には戦争で起こったことやそのときに使った道具などがたくさん置かれていて、そこでも戦争の残酷さを知ることができました。

それから、沖縄県の糸満中と交流をすることができました。糸満中との交流は、事前学習の時から最も力を入れていたことで、僕自身「山形と沖縄の違い」を知ることが目標としてがんばりたいと思っていました。そして、糸満中では、糸満中の生徒の皆さんのおかげもありとても有意義な交流会を行うことができました。

僕は、今回の地域間交流セミナーでたくさんのことを学ぶことができました。1つは、やはり戦争についてです。沖縄は、日本で唯一地上戦が行われたところで、被害はとても大きなものでした。今回の体験で見たのは、ごくごく一部分かもしれないけど、これをきっかけにもっと「戦争」について感心をもち、戦争反対の意志を発信していきたいです。もう1つ、沖縄の温かさを知ることができました。今回の研修で会った沖縄の人はみんな温かく、沖縄が観光地として有名なのは、そういうところも理由の1つなのではないかと思いました。

今回のセミナーで学んだことを南陽市でも発信していけるようにこれからもがんばっていきたいです。

充実した3日間

南陽市立宮内中学校 2年

今回のセミナーを通して、僕は様々な体験をし、そして、様々な感情を抱くことができました。

まずは、事前学習会です。僕自身、ここまでしっかりとした準備は必要なのかと考えていました。しかし、今回のセミナーは、この準備があったからこそ成功したのだと思います。この準備の大切さをこれからの生活でも生かしていけるようがんばりたいです。

さらに、現地での体験を通し、学ぶこともたくさんありました。僕は、戦争についてたくさん学びました。特に、平和祈念公園でたくさん学ぶことができました。僕は、沖縄に行くまで深く戦争について考えていませんでした。しかし、現地で生々しい話を聞いて、深く考えることができました。その中で心に深く残ったのが、「戦争をするのは人間だが、戦争をしない努力をするのも人間だ。」という言葉です。この言葉をきいて、この言葉はこれからの日本にとっても大切なことだと思いました。さらに、海の見方というものも変わりました。これまでの沖縄の海はエメラルドグリーンできれいなものだと思っていました。しかし、ただ綺麗なだけではなく、戦争の爪跡が残る悲しい場所だというイメージが変わりました。このほかにも、戦争時の写真などがあり、この沖縄という地は、こんなにも辛く悲しい場所なのだということを知りました。この勉強ができたことは、これからにつながるすばらしい経験ができたと思います。

民泊もいい経験ができたと思います。沖縄のお母さんは、本当の子どものようにかわいがってくれました。とてもうれしかったです。民泊でどんなよい経験ができたかという、沖縄の家庭のぬくもりを感じたことです。温かく迎えていただいたこともそうですが、何をするにも皆で楽しく仲良く、笑顔が絶えないところから、そう思いました。夕食と朝食でも沖縄でしか食べられない味がたくさんあり、とてもおいしかったです。

このセミナーに参加させていただいたことをこれからも誇りに思い、ここで学んだ争いの悲惨さを自分の中で受け止め、後世に伝えられるような努力をしていきたいです。



糸満で学んだこと

南陽市立宮内中学校 2年

私は、今回のセミナーで、たくさんのことを学ぶことができました。その中でも、特に印象に残ったことが3つあります。

1つ目は、文化・歴史の違いです。戦争以来、しばらくアメリカに占拠されていたということもあり、違うところがたくさんありました。学校に入るときは外履きのままだったり、見送りを走って道路まで出てきてくれたりしました。私は、アメリカと日本が混じっているような県だと思いました。歴史では、戦争があり、山形県では見られないような壕やガマがありました。過去にあった悲しい現実を忘れないように、平和に関する建造物がたくさんありました。そこに訪れた人々は、必ず、言葉にならない気持ちになります。悲しい、苦しい、痛々しい・・・のどれにも当てはまらないようなとても複雑な感情がこみ上げてきます。

2つ目は、観光客が多い理由です。私は、今まで、海がきれいだから観光客が多いのだと思っていました。しかし、それだけではないということが分かりました。それは、「糸満かまぼこ」など、名前のついた食べ物があることです。市や県の名前を入れた商品が売れるのではないかと思います。商品に工夫を施すことで、売れ筋がよいのだと思いました。山形県の名前が入った特産物や南陽の名前が入った野菜・お菓子などを作ることで南陽の商品が売れると思います。もう1つはPR活動についてです。琉球ガラス村では、ある工夫がされていました。それは、ガラス作りの現場を見せることと、ガラス以外も売っているということです。現場を見せることでその商品を買いたくなったり、体験してみたくなったりします。そして、ガラス以外も売ることによって、おいしそうで安いと思えるようになります。周りに高価なものが置いてあるので錯覚させられるのです。

3つ目は、戦争についてです。私は、事前学習で沖縄戦について調べていました。しかし、実際に壕に入ったり、資料や遺体近くにあったものを見たりしてみると、文章からは読み取れなかったむごさで胸が痛くなりました。私と同じ位の歳の子がこんなに苦しい経験をしたなんて考えられませんでした。そして、今、戦争を経験して、その恐ろしさを伝える活動をしている方々は、生きていることが申し訳ないと伝えていました。私は、この経験を通して、平和の大切さ、ありがたさを伝えていきたいです。

私は、今回のセミナーを通して、戦争、観光、歴史・文化について深く学ぶことができました。南陽市の未来は、私たちが創っていきます。戦争のない世界、観光客でにぎわう南陽市。夢のような話ですが、その夢を実現できるよう、私はこれから、自分にできることを精一杯がんばりたいと思います。そして、この経験を自分の生きていく糧にしたいと思います。

見方が大きく変わった研修

南陽市立宮内中学校 2年

これまで、僕はいつも先入観や第一印象で物事を見つめてしまっていました。しかし、今回の地域間交流セミナーは、自分の見方や考え方が大きく変わった充実した3日間になりました。

見方が大きく変わったのは、研修前の事前学習です。僕は今まで、沖縄とはどんなところか、ときかかれたら、「海がきれいで暑い島。」とこの程度の知識しかありませんでした。しかし、沖縄についての知識や理解を深めることで、沖縄は、文化や歴史もまるで違う異国のような島であること、そして、最大の地上戦があった悲しい島であると知りました。

文化面で驚いたのは、「食」です。沖縄での民泊体験では、民宿を経営していらっしゃるお父さんとお母さんと一緒に調理もさせてもらいました。同じ日本なのにここまで調理が違うのかととても驚きました。しかし、ところや文化は変わっても人の温かさは変わらないと実際に住んでいる人とのふれあいで感じました。沖縄のおいしいサーターアンダギーやソーキそば、ゴーヤチャンプルーを食べながら沖縄の人と交流を深め、人の温かさを肌で感じる事ができた民泊体験になりました。

次に、このセミナーを語る上で欠かせないであろう戦争のことについてです。この3日間、とても多く戦争のことについて学んできました。学んだことで、特に印象深かったのは、壕に入ったときです。壕は戦時中多くの方が生活していたと聞きましたが、とても暮らせる状況ではありません。出入り口の天井は低く、足場はゴツゴツ、中は目を閉じているのと同じ暗さ。しかし、暗いほうがかえってよかったという人も多いそうです。もし、中がはっきり見えていたら、死体やうめく人を見て頭がおかしくなって壊れてしまうからです。こんな悲惨な戦争が70年前に実際にあったのです。僕は、そのとき、乏しい知識、1つの見方では、物事の本質を見つめることはできないと衝撃を受けました。次に、僕たちは、平和祈念資料館に行きました。そこには、1枚の写真がありました。一人の女性兵士が、アメリカ兵に射殺されている写真です。ぼくは、この時のアメリカ兵は女性兵士に対して「かわいそうに」と思っているのだと考えました。しかし、戦争を体験した現地の方はこの写真を見て、一言「これは、やらせだろう。」とおっしゃったそうです。写真に説明はないですが、やはり僕たちと戦争を体験した人たちとは見方も考え方も大きく違うことを改めて実感しました。

戦後70年。戦争の体験談を語れる人が少なくなってきました。しかし、これが100年になったらどうでしょう。いよいよ語る人がいなくなり、沖縄戦がより過去の歴史となってしまわないかと不安に思います。僕は、このセミナーを通して沖縄の繰り返してはいけない戦争の残酷さを伝えることが、次世代を担う私たちにとって何よりも大切だと思いました。

平成28. 3. 9(水)

沖縄戦を知る

2年()組()番()



◇発表を聞いて最も印象に残ったこと、考えたこと、身近なことで今後心がけようと思ったことを書きましょう。

自分と同じくらいの年の人が今では考えられないような
つらい経験をしていたと知りました。目の前で手や足が
切り落とされていくのを見ていたことは何年も何十年も
忘れないほどの深い傷になったと思います。私は
今回のような機会がなければ、戦争の実態を知らずに
大人になっていたと思います。生きていることを嬉しいと思
いながら、家族や友達が生きていることが嬉しいと思いつつ
1日1日を大切にしていきたいと感じました。

◇4人へのメッセージをお願いします。

夜遅くまでお疲れ様でした。
私は実際に戦争を体験したわけではない、4人のように
体験した方からお話を聞いたわけでもないけれど、戦争のつらさ、
おそろしさ、おろそかさが伝わってきました。
「戦争をくり返してはいけない」ということを次につなげていきたいです。

今回学んだことを「伝えて」地域を活性化していきましょう

平成28. 3. 9(水)

沖縄戦を知る

2年(2)組()番()



◇発表を聞いて最も印象に残ったこと、考えたこと、身近なことで今後心がけようと思ったことを書きましょう。

戦争というのはたった一人の欲を周りがうけ入れていき生まれてくるもの
だと思えます。僕は戦争を以て得るものよりも失われていく命のほうが
絶対に大切だと思えます！人間は命が無ければ何もできません。
命の尊さを今を生きる人々が深く知り、戦争を起すにはいけない。
という気持ちで人間全員に生まれれば戦争はできません。
ですが、ドイツでのテロ事件など、外国でまだ起きていく現状にあります。
僕らでは戦争を止めることは不可能に思いますが、分りあう人が増えること
によって今の世界を少しでも変えたいです！

◇4人へのメッセージをお願いします。

戦争をくわしく知る事ができました。
体験しながら分かる本当のうらさがあると思えます。
その実際のうらさを少しでも知れる事ができたと思えます。
ありがとうございました。

戦争について、分かってもらえてうれしく思います。
これからも、平和に感謝して生活してってください。